新鬼神論　上

ロ 10
26
1

門 波 10
號 26
巻 1

おのれいとけなかりしほとよりふみよむことを好みて
あまたの書ともを見るうちに道といふことを尓たつねし
拾めくよりのちハあまたにちかくといふことのもとを仏
深くしめて其かの所ハいろいろしとまみなかきぬ孔子の
教釈迦の道ても国ても物の名人の名年の名所の名抔
さまさまかはえをたし只ゆくれ道の一筋になんと見
しをすらし道うまりしゆめかなんちするすなをて
思ひまぬ孔子釈迦の二ツの道もいつわくなしとハ思ひくり
と称のひなりぬるふ古学の林より平田らしれぬる
ひきしりよりて皇国のいにしへ学ひに入そめぬ始めれ

10
26
1

ねとハいはふもあたなられとの中ににのこれあんて
その文ともむかしかなしらすけりけり
いとくちをしとおもえなくとかくて鈴屋翁の古事
記傳といふ書をしあらは見りてゆくゆくとほんとにこ
けしおもうれは誤うちむえく思ふまもけしこして
色うしれとわかを元りなワかんハみなむつことく形なる
事後さとりぬかくて後たしれくせをの板のはあ
申くるをたかしるつこと相混くうし道の高まとの
論しけさまへそぬそ中ノまも此鬼神といふことのよ
そうとえりの物ともしくもいやしきこと

そはいにしへ世より皇國人唐國人そのけぢめつけるひまち
まちにみだれて一論にさだまらぬ説ときさかれ世乃
人のまどひたりぬべきをこれは鬼神のうへをとききあきらめて
西國にして猶さかれたるしもわのまとうく心をいふ
ことわりを紛れさるにまぬかれてなびく世なるひのひく
けしき鬼神の道の論に新鬼神論といふ書をあらはし
けるをしるひのなけ書をとらぬ皇國人のし人の心に
しるべとなる説をとくにいけつるひく幽冥奇靈をうれ
生理をときつくしあへる今より後の世学文のしるべ
人りなきくはしきまとめやうくやいかけつくしたる

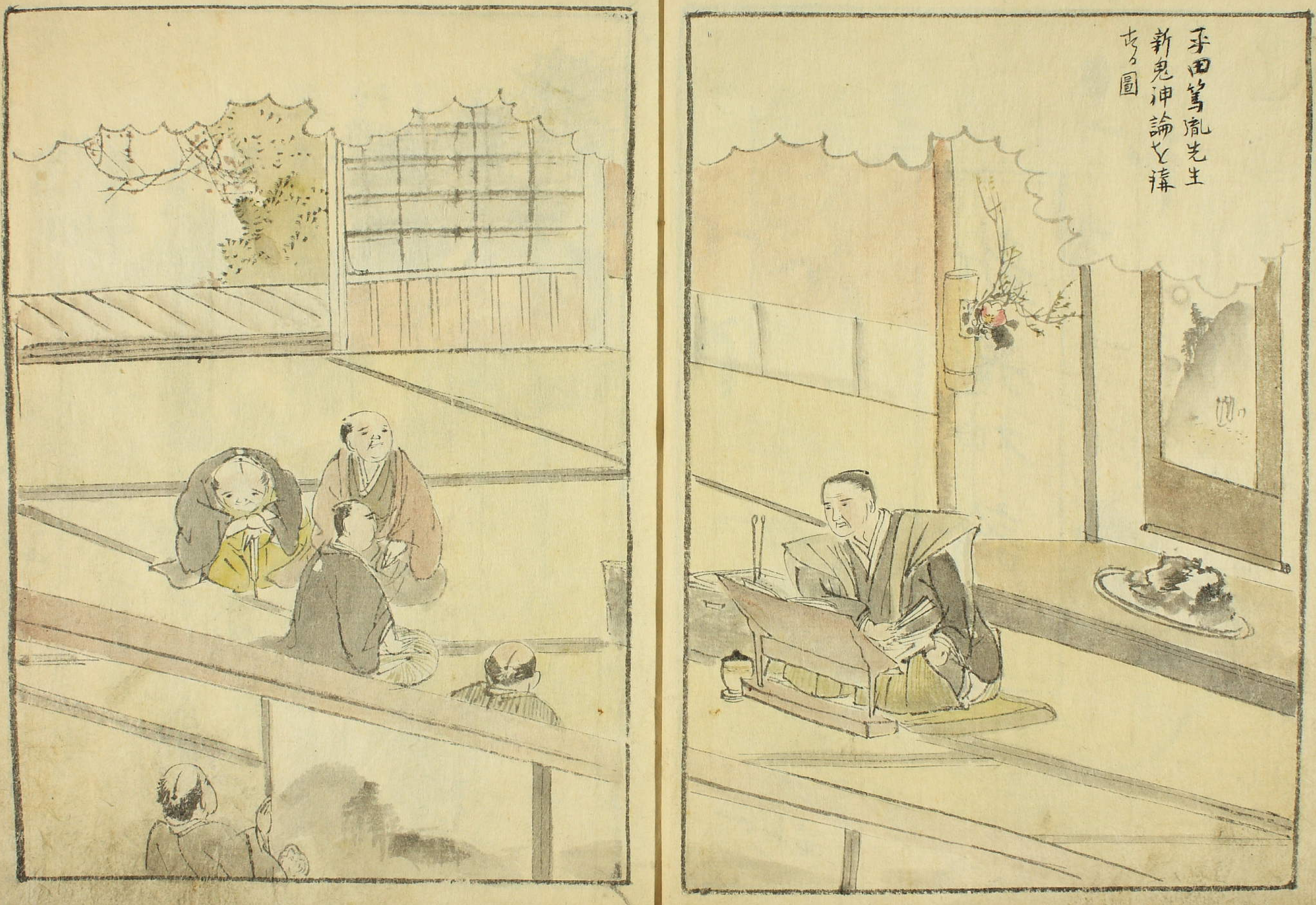
とかくも今までのたまひしかハふかくしたまへるとなん
まへハこの書乃論書をはしくしよろこび給ひぬ
けれハ書の名乃新たなる文字と真なるもしいかゞ申しけん
ゆへらしとこそ文ねさるれハ文ら人なひおいてそもく鬼神
有無のことハふかく人のさぐる論へらるの説を四しゆ
ちりもいりたまんことを世の中の人のんゝとつりぶかふ
百人のうち九十人まてハ有とおもへり孔子の道釈迦乃
さまたと学ぶ人具有の理のたまハすに無と物も
へたて文字の学びふおしいたなきるへハまことより鬼
神ハ無ぞゆへまりそてふ理をわかつ人ハ今なぞふハ有

なりといひてさぬるハ孔子釈迦のえらへるあまたをまこと
人つきてハしる釈と無と思ひつるすとえらて今
よへりも有たりと如きてもろ/\のひも有か如くせんと
おりふあり犯れるもその人にんの庭にハ無き侍るにあらそ
まへし文此人よりも今一きさし学の子ゑなりけるひとの
よく思ひ悉るゝ無といへて鬼神のいやしくくえも
しき説あり有なしといへて今海のいふさり取たりしいより
とやきんなしとやせんと思ひておのひとつつひて歎
のんさきあつのまくつひてり鬼神ハ有無のさだめさる
とそかしてきんたりしめと行のひよりてハいかなともと無

ともとかうめきちんとたへんとふもかくれはりけつつろひとハすあり
いくらく思ひさうあるそうらハ普通のたましゐ
学者のききふそかりしとたんこくとをてらまうし不孝
あるし大この智愚尋常の学ひすそ鬼神の事
とやうくやかけつしみさるやふきさまはいかしきろ
へくろいむかへき事にたんねのまゝ二人のかやまらハ
さるのたれとかまきの人く後の世すとはさいりて
いくあまの人とる働きをいへきとへく鬼神も君も
親もなき物と思ひたしんまハつひにしそうみをもそそ
なまひ家をもほろほしたん事いとうあさましへき也

孔子の怪力乱神ゆかたらせとといひ又まれに利と命と
仁とをいへるもこへなり中くの物をとなひとなうんを
とはかりてあられは平田のうしの話原の翁の古事
學の働きその道のんもとへの有無はけてりかしこ
あれいひあらくたる說をも破棄て有しきるあまそ
あれ真の論はとときまへるにもあらさりけんこそ
働きに平田うしの心かそはしるの翁の心なるへ
かの翁のんすとはしむすふの神の御霊なりけんと
うしこそかしこみもかく働きとハ中村よし道

新鬼神論



平田篤胤先生新鬼神論を撰する圖

新鬼神論

平篤胤著

漢土の古書どもに上帝皇天などいひまた唯に天とありもいひて甚く可畏物にいへるは天津神の天上にし坐て世中の事を統主宰り給ふことを彼國人も且々推察まつりしなるを

さるは尚書皐陶謨に天叙有典勅我五典五惇哉天秩有禮自我五禮有庸哉また康誥に子祗服厥父父字厥子子弟恭厥兄兄友子弟天與我民彝また毛詩大雅に天生烝民有物有則民之秉彝好是懿徳など云へる類なほ多かるを此等をよく古意に称へるいひ

さるにても天神の産霊の妙なる御霊によりて人も物も
なり出まさる物のかぎりは道を具へて生るゝもの
なれば事どもなく悟るまじきなりなれども
論ふことあるべし
然るを後世の儒者これをしらずに詐言に釋なしたり
さるは程子の説に天道理理便天道也且如説皇震怒
終不是有人在上震怒只理如是といひ。また朱子も
天者理而已なりといへる類なり。此意ば古に天といひ上
帝なりといひても情もなき物の如くいへるはそれ自然乃
理と假にいへるものなりといふことの義なるなり

次にいふところをみるべし
然れどもかく詐言の如くなれるうへは熟考すれば強ち後世の
儒者等の誤のみならず彼國なべての風俗にて此を
決べき理なりさるは外國にはなべて正實の傳説
とてハ適存なる傳説も髣髴しくたしかならず且
漢土を生賢ハる國俗なれば古傳の僅に存ることもなべて
詐言めきてたゞ此の如きなり
然るハ前にいへる皐陶謨康誥大雅などにいへる
ことも何となく詐言の如く聞ゆるなる類なり正實
の傳説をしらぬ人々の此を詐言とせしも實は理なりける

終にハこの天津神の世中の事を主宰て給ふといふことを
好き口實として奸曲き輩何事も上帝の命天命と
誣詐てもおのが罪を文る言種となしぬ
さるハ殷ノ湯王ヵ夏氏有罪予畏上帝不敢不正といひて
我の君を殺し周武王ハ今予發惟恭行天之罰ヲと云
ひくその君を弑し新ノ王莽ハ漢の天下を奪ひえて
皇天上帝降顯大佑ヲ云く神明詔告屬予ニ以天下ノ兆民ヲ
なといへる是なりなほ數多あると今ハ其危きものを擧げ
されバ漢籍に天を本として云へることも古意あるとも説
言にいへるとの差別あり此ハよく辨へ知べきことなり斯て

世の移りもてゆくまにまに彌益に誣言の如く云ひ慕ひ古
よりいひ傳へ來りし趣意を失ひ狹少き惡賢の漫り
てその説皇國にまで及びて古より漢學の人々此癖を
免かるゝハなし

漢學者のことハしばらく置て古事を説る人でも此に智見ある
陷溺して西天の傳統をさへ寓言の如く解曲ぬ
其ハ中にも近世となりて古學てふことを倡ふる儒者等何
事も先儒の誤りなりと説を多く見出でていとよくよろしきを
説のうちにはなほ天帝を説るの餘をへらし鬼神の事なども
論へるのこのハ猶なほ先儒の説に心醉て陽にのみ説を

難まれても陰には誰も彼の説なるの畏と書きたるを誹らず
唯いはゆるその皮膚を変へたるのみにて更に其肉身を更
めざれば是将古意に称へる説の出来たるなりし
さらば其古学者といふ人々の中に物部ノ徂徠といふは
心広く才秀て更に普通の漢学者と等並ならぬ
此人しも古義と得て易にいはゆる以神道設教
また礼記に明命鬼神以為黔首則などやうの
古意なしぬ語にも惑ひて実なる鬼神といふ物を
假て教の則と為したるものなりと思ふ旧癖のぞ
こはさかしらなり故は其鬼神論に聖人之未興起也其
民散乎無統知有母而不知有父云々死無葬而込無祭云々
聖人之制鬼以説一其民と云てこれ甚しき臆度
杜撰の説なりすべて漢学者の癖として何事にまれ
好事はみな聖人の制て初めたることのごと言ふもこれ
いとも智見狭く愚なることなり抑人の生れながら
にして鬼神を敬ふことは是れ天津神の命
なり賜へるいはゆる性にて則道なるを漢国人なりとて
聖人としてもいかで己が心と鬼神を尊じるを
知らざらむ元来その情あるにつけて聖人といふ
輩その則を制しあへるものなり中庸に率性之

謂道脩道之謂教といへるも此謂なりまた同鬼神
論に謂之有者權在彼者也謂之無者權在我者也
權在彼者疑乎仁其失愚也權在我者疑乎智其失
賊也愚與賊君子不由焉且也有無者鬼神之迹也な
どいひ自ハ仁と智とを兼たるさまに論ひそれと此を
宋儒の説とハ辞の異なるのミにして意ハ全おなじ
ことなり中にも甚しきハ邵康節か云へる鬼者人之
影也人者鬼之形也なとやうの説を先正有言なとと
いひて首肯しけるハ更に徂徠の所爲とも覺えず
なむ又伊藤東涯なとハ不窮鬼神於有無此善

窮鬼神者也と云へるともこれらの説ともハ朱子既く
いひおかれ其ハ其文集に鬼神之理聖人蓋難言之
謂眞有一物固不可謂非眞有一物亦不可と以へれ
なくひ從者かられ古學者流の説と何の異なる
ることかハかゝる斬て宋儒の説を破るとも誰か其説を
信ありといふべきまじく鬼神とも無に窮めず論ふ
ことハ遁辞ましまてに有とも説むともれハ奇怪に渉て
理外まきこえ無とも云へきもれそその迹ありて物
然るせむものへかく何か高妙に髣髴しくいやかし
説きて人を欺く奸さ所爲なり抑かく人この僻説

とこハ露ハるまハあらきなき所為のことくなれとハ
憎ミ玉ふ人もあるへけれと只ハ僻説なりとのミこそハ
てハ其説てふ様ハあらし見るを聞ふる人々の如何なる
故ありて悪しと云ふにやと不審く思ふもしらるの
心配なりぬる人その罪を怒し賜へやいふなうこと
なほ復古とてえ之へとも清く古へ意ニ復らさるにて甚く
可惜しき事なり實ニ復古の志を大く為しあるも
まハ只ニ孔子の言も行ひともの徴とするもその実有なる
ことハしらい自ら成るかくなも今まへく然る人を聞えさるハいふふ
そやはハ誰も書籍の上の空説よのミ拘説にて熟く古

の事實ミ孔子の言行ニ心留めさる故なりしもの也孔子
の霊黄泉ニ在く然らもされハ甲斐あるや思ふそも抑漢
國の事漢籍ニ上のまハ儒者こそいはれ我徒の煩ハしく
こゝすとも云いめへき云にのれとも此事の熟く辨へよ
きる漢學者のなき等と餘所よりいふに泥據ハ差
出ることなれとハいふて論ひ試るやと思ふあれて今そ
孔子の言と行とのなとへく鬼神の上ニ及へるを論語成
中庸とを摘出て

秦漢以前の書とてをも孔子の言行の見ゆる最多
き中ニ論語と中庸のミを挙るてハ餘の書やとも

なる傳聞の誤まれるは後人の杜撰あるは信偽を詳な
らねばともに混雑して今もとりて論ひ言とも
の多かれど其れを挙むはあまたに衛に迷ふ媒ともなれば
よく徴なきは取らじ。されども論語と中庸とを熟
読て考ふれば孔子の言行に足れる事はなしと
思ふての所為なりけむ。人怪むことなかれ
大概は漢國の事實もて合て徴とし古傳説にてらして
その實有なるをも暁して因によせて神祇のうへに
渉る事等を古へ意を以て論ひもしたるなり漢学の人
は願はくは孔子の毋意毋必毋固毋我てふ語によりて公平
なる心を持て熟く見別ち賜はねかし
さて又誰も天と鬼神とは別に論ふ事にてこそ實に
然とへさるべきなれど其霊威ありて奇異なれば
同事にてそれ相通はして廣く鬼神とこそいへるなり
次に挙ぐる中庸の文に鬼神の徳其盛矣乎云々
といひ左傳にも鬼神非人實親惟徳是依故書に
曰皇天無親惟徳是輔なといへる類多くあり是
これ天地の神と廣く鬼神といへるにて然ても
天も鬼神も實物なるをと暁さむとのわざなれど
一すぢにいふなれば天にして神といひ地にしてそ

祇といふハ人にしてハ鬼といふといひまた神ハ伸之鬼ハ
歸なりなどいふ類の甚しきはさまざまに説のなせ
されどもみな徒らに此ハ是只鬼神と
いふなりそれをもいひて叶ハぬものハ席しくいへし
抑漢土の古に上帝后帝皇天まて唯に天ともいへるハ皆
同事にして前にも云へる如く實物を指ていへるにて託言
に非ずさるハ毛詩に文王陟降在帝左右といへる形
なき故にいひて左右といふなり
然るを朱子なども以て今若説文王真箇在上帝
之左右真箇有上帝如世間所塑之像固不可然聖人

如此説便是有此理といへる天神の御形容ハ如何に坐
まさんハ知り給ふも既に御言と御行の灼然なれ共其の
御形の坐まさぬハ申奉るも更なりいひて是を不可
なりともいふともしまた朱子の説に今人但以主宰説
帝謂無形象恐也不得若如世間所謂玉皇大帝
恐亦不可ともいへるあらぬ御形を有無に窮めしど
論ふなる者ハ傳る例の心きたなき説なりけり
孔子の曰く君子畏天命小人不知天命而不畏也また獲
罪於天無所禱またく欺天乎またく知我者其天乎なとされ
無き形なく情なき物といひて我と志るにハいへらし

然るを伊藤仁斎の論語古義に此を論ひて云るは何謂天知之乎曰天無心以人心為心直則悦誠則信と云る是儒者にしてあやしき如是孔子の言行に暗きや徂徠の徴にこれを破りて孰謂仁斎先生非理学乎と云るは実にさることなり

此等の言をよく熟考ふれば孔子の天は上に実物の神在ことを世の中の萬事を主宰り賜ふことをよく悟りて畏るべく欺くべからず天津神の心に背ては他に祷る神はなしと畏ある事を思ひ游つべし其は天津神は譬ば諸神の君の如くに坐せばなり

此を天帝とも云ひて只に天とのみ云るは辟言にて山川之神其含諸といふべきを山川含諸といへる山川の字義の如く其在所を以て云へるなり

然れば天神地祇の所為の著明くまして感格ありしことをいへるにて先づ史記の周本紀に姜源と云へる女は巨人の足迹を履て妊みて産る子を奇怪て棄るに鳥獣も乳を含ませなどして養ひければ驚きて其子を育て棄と名づけける

これは周の祖なり左傳に楚國の闘伯比と云ふ者郊と云ふ國に畜されて其所の女に奸けて子を生りし

女の親これを怒りて其子を夢といふ澤へすてけり
しに虎これに乳呑しめければ奇みて終にその
子を謝しけるといへりよく似たる古事と
する有娀氏の女を玄鳥の墜せる卵を呑て契といふ子
を産めり

これ殷の遠祖なり

此等鬼神の所為著明きことなりし非ずや
此事を明の楊用修といふ者論ひて誣妄の説なり
とし此ハ詩に天命玄鳥降而生商といふ語のいつはり
よりて作りなることをかなしと強て妄説となしぬ

まことゝもハまさしく漢人の例の狭き智見によりて信ざる
なり此等の類なしと外にも神異なること数多あり暇
あらざるに毛詩なるハ此古事の實なるにより作りし
なる詩なり此詩に依て作りたる古事とおもふハ
本末のたかへるなり今世にも此に類せる奇異さへあるに
あるなり況上古にはなほなり更に疑ふべき事に
非ず朱子の語類に此等の事をいひて非可以常
理論也といひ又當時恐地説必是有此今不可
以聞見不及定其為必無といへるハ朱子にハ甚めづ
らしきことなり

ある感格ありしことハ殷高宗の夢ニ天帝の良弼ヲ
賚とて傳說といふ人をゆめ見ける
此事もと楊用修が論ひニ高宗民間ニありうちしおぼし
傳說が賢人なることを知りて此を挙用ひむとするに
民の從ふまじきことをおもひて殷人ハ鬼神を信ずる俗
ゆゑ夢ニ託けて挙るなりといへる是もまた
臆度の杜撰なり五雜俎といふものニ楊用修最稱傳
識亦善杜撰なりといひてきびしく此人を悪める詞あれハ
信なきことなり ある朱子も只是夢中ノ事說是
帝真ニ賚不得傅說無此事只是天理亦不得と云へるも

また例のうたがはしき說なり高宗ハ賢人なりし
王と見えられけれハ誠心ニ神を尊ミられしも
すれどうらは福ありうむ事さうに疑ふ無き事なし
非をおもり千百年眼といふ書ニ傳說之事なり
咸疑之以爲夢而得賢可也云ミ蓋所云夢賚者
實帝感其恭默之誠而賚之也云ミ鄭文夢鹿
心誠於得鹿者可以得況誠於求賢而有不得者乎
といへるハ甚く感ぜしき說なりし

ある周公旦ハ祖宗の神霊ニ願て天津神の禱ましまし
その兄武王の疾を瘳し其後武王の子の成王ニ罪をゆるて

他へ出居給ひし甚しく神の荒びけりけるに成王驚て
周公旦が罪なかりし事を悟りし事あり誠情より祷る
時は感應ある事もあれとし
此を尚書の金縢に見えたるものなるが明人王廉
和仲なるもの輩これを論ひて云へるは周公面卻二公
以為未可戚我先王矣陰乃私告三王自以為
功此儉人佞子之所為也而謂周公為之乎死生有
命周公乃欲以身代武王之死則為不
知命且滋後世刲股醮天之俗周公之聖豈其然乎
なりと云ひて金縢を偽書なりとなむ巨細に論ひ
あれど金縢は伏生が傳へたる書にて古書なることを
論ひなきをもて云ふは此も周公旦が鬼神を信じたる
事を異みてなれど是聖人といふものを飾らんより
よく思ひ過して却て惡く云ひなすにてあるなれ
聖人と云へども實に善人なりしむかしは其真情は凡人
に異なる事なかりしなれば神の威靈を
御かしこみいやまひて神に祷りて感應ありし事をしら
ざりし然るを後世の儒者等己が智見の狭くて神
を知らざるに競て古人の真情をさへに疑ふは甚しきこと
なりかし果して聖人とふものの普通の儒者に

鳴

のごとく人情に疎くて鬼神と信ずるものなるを
しりて此も鳴呼とのみや云ひはしまじく儒者
の聖人ではなく人々の言行を解くとみるに餘あり
高妙に説むとて更に人情に遠き鳴呼人にいひ
なすて多くて見るて心苦く片腹いたき説等
の多きなり唯是以其代某之身となる所の註
釋に先生有命不可請代聖人叙臣子之心以垂
世教などもおもふに云へる説多かれど此は更に真の道
てふ事を伺ひ知らぬ者どものいふにも足らぬ鳴
呼説なりされば此所に金縢の雑用なるをも

似されども事の實ありしと志しきむとの所
為なり金縢の事なる本末をも書出せり合せ
考ふべし

孔子云く鬼神之為德其盛矣視之而弗見聽之而弗
聞體物而不可遺使天下之人齊明盛服以承祭祀洋
洋乎如在其上如在其左右詩曰神之格思不可度思
矧可射思夫微之顯誠之不可揜如此夫かかる鬼神
を祭祀て感應ありとおもひて事死如事生事
亡如事存孝之至也郊社之禮所以事上帝也宗
廟之禮所以祀乎其先也明乎郊社之禮禘嘗

之義治國其如示諸掌乎といふまでく至誠之道可
以前知國家將興必有禎祥國家將亡必有妖孽
見乎蓍龜動乎四體禍福將至善必先知之不善必
先知之故至誠如神

偖て禮記の　家語なとにハ我戰則克祭則
受福蓋得其道矣と云へることもあれバこそいひ
合せ無し
なと云へハ孔子自ら云へるのことなりしも其ハ弟子等の孔子
の鬼神へ對ひての形狀を記して祭如在祭神如神在
といひ

此事なども委曲にし云へば合せもすべし
まづ齊必變食居必遷坐まづ迅雷風烈必變なとゝいへ
バ後世にいひ出せる説のごとく上帝といふも鬼神といふも
これ自然の理を假に云へるにて實ハ形容も心もなけれ
ども是を祭るハ聖人の民を教ふる術に設ける事なれ
吏なりと云ふべし國も穩かに治り豫め禍福を知るなりの
感應あるハいふにもやまで事實の迹あるとばかりいふとかいへ
むともさもあれ無心の死物を孔子ハ何ぞ人に教へて畏れ
よといふ無きまでも自も顏の變るまでに畏るべき所謂
なきに非ずや平常の言行とくらべ思ふに愚夫児女子

なきのみにもあらず風雷すべて奇異なる事と畏るゝ類ひ
多くハなく世中の事ハすべて天神地祇の奇妙なる
御所行に洩るゝ事なく別に迅雷風烈なとハ神の荒
びとして恐るれども可畏く何の故なるの理りに依てかゝるは
とも測りがたきに依て畏み敬ひつるなるべし さると
儒者のいふハ天ハ積氣にして雷ハ陰陽の相軋て激する
聲風ハ陰陽の動靜なりなどいひて只陰陽といふ
てその事々しく云へどもその陰陽といふ物を死物と
きめむか活物とせむか死物なりとせむかハ徹する事なくして動
靜も有らし或ハ激し或ハ動靜するともあるハ次で

活物なる事論ひなし 既に活物なる上ハ靈有りてと論ひ
なしまた陰陽ハ死物なれども激動靜にあるハ自然
なりと云ハむか 其の自然に動靜さするハ何物ぞや
死物なる陰陽を動靜なさしむるハ次で活物の神
在すべく思はるゝことと疑ひなし

此につきて談あり 近比阿蘭陀といふ國の學問
始りて此大江戸なとにも是を學ぶ人多くなるが誠や
彼國人ハ深く物の理を究ることを好みて何くれと
考出しる事も多かるが中にエレキテルてふ器あれ
此ハ雷すべて電の理を考へて造りしるよしの器

なりけり往年或人の許にて見てありしに一の箱のな
かへ作り置て雷電の形容をなさしむるにハひと
三人にて其事を為し一人ハ床机あてに坐て彼
箱の上なる筒に付たる糸をとらへ一人ハ箱の横の
方より出たる棒のてさきのを糸車をまはす如く
まはし一人ハ金もて造たる物さられを棒のやう
しるものを彼床机に坐たる人の躰に付けるに
誠に雷の如き光を出し鳴動くなといひしく
奇異なることにして造りし器なり此ハ己その
蔀輪をまはして者となりて見てありし体を記せる

なり斯くその器を蔵する人己に語りけらくハ天地
の雷電にのみを実に此理に等されハ何の畏るゝことを
えりしむさるを信りハ甚く雷を畏るゝ人もけるハ此
理を辨へさるよりて愚なる事なりとさへ申たりき
此ハ實によく造りぬることのなりけれど実の雷電
も果してかくありけりや其ハ事に測りて定めかたき事
なりけり此理に違ふことなきやいかれ此器を君
と我とまた二人にて此所と彼所に廻し
たる接しをへもいたす雷光とも見え侍るハ非ともや
然もぞ天地の真の雷も其如く君と我とのごとき

物の在てこそのぞみハ決てなきの理なれバ此
器ハ人の工にて成たる物なれ今傍に置てとかく
もてあそぶもせざるも己が心侭（コヽロマヽ）なる一個（ヒトツ）の小器（チイサキウツハ）なれど何の
畏る事も侍らず然ど真の雷ハ雲の中を荒らび
時ありて或ハ雲中より放ち下ることも有て所を
撰（エラ）まず木を裂（サ）き石を砕（クダ）くなど何といふべき
なしとて無情（コヽロナキ）を思ふ人悪きも善（ヨカ）らぬ
人なきを搏殺（ウチコロ）す類も古よりあるまゝなり
これ皆武き天と罵（ノヽシ）りても殺（コロ）されたるなしと熟（ツラツラ）
思ひ見るべし紛らはしき斯測（カクハカ）りて可畏（カシコ）

言ふをさへ智なくて工出（タクミイダ）せる器にしあらでいふて其
理の知らるるものはすべて然ながらの浅はかなる臆度ハ篤
胤ハ更にさら信（ウベナ）ひ侍らず是をもし實に此を熟く辯
へたる者あらばきゝまほしけれ人智の狭（セマ）き舊習（ナラヒ）とする
物を信じ古を學びて知らで給ひしことをかくのごとくに此人
ゆゑ腹立てなほ何くれといひ争ひもせめ
諭（サト）すとも従（シタガ）ふべき容（サマ）に見えず猶ざりしを
君の御心に随意と言ひて己ハ帰（カヘ）りてきこし
惟ふに鬼神は二氣の良能なる鬼神者造化之迹など
どいへる説もあれど實は二氣者鬼神之良能なる

造化ハ眷鬼神之迹なりとやらん奇妙なる天地の神の御所行なるにより漢土も古ハ實に鬼神を敬ひける故其禮といふもいみじき事にてありし是真の道なりけるゆへにやありけん夏殷の頃まで殊に然りけりしとなり斯て周の代となりても猶上古の餘波にて神を祭ることを重くしたるにや

然るを左傳成公の十三年の傳に國之大事在祀與戎とみえたるにても知らるべし此ハ徂徠の鬼神論に先布暮十有二月而祭祀居其半禮有五經莫重於事鬼神而獨其與戎為國大事其官與物但恐其弗備而徑費不問受福降殃諄々乎言之是庸何虚設乎といへるが如し追々生賢き風俗漫りに神祇を祀る事ハ民に敬を教ふといふ術の如くなりし末にはもとも此ハ西戎の元来薄悪なる国俗なるゆゑといひなから我老翁の云くまことの如く實にハ周公なとの餘て小賢を先とせるよりも發まる事にて易に聖人以神道設教といひ禮記に命鬼神以為黔首則とありて哀祭之禮所以教仁愛也なとやうの語ハみな後の小賢さ世となりてよりいひ出せる詞ともなり然るにより論語中庸など

とにきこえたる孔子の語どもふかく實なしれ語ハ一ツも
見えずと
餘の書等に孔子の語とて有るにハ然る實意なら
ぬ言も多く見ゆれど已ハ更ニ信ぜずと其謌
こに尽しかくしと云へどもかくの語ハ猶人に
偽と教ゆるものにて孔子の意とハ反かればなり
まして西戎国の事にハ元來正實なるべしとも後にも
只よそへの文通の事と変はることも多くあり
さるハまづ親などの失へありし節ハそのいのれしに
得堪ども飲食するのも旨からねど食をしての

つかれに躰もやつるゝ事多く此彼国も古にハ誠し
かる者もありけむかしさるを後にハ是を則として
誰もおこなふべき事に制とさだめたるがきのこと悲
しくもなきものとて食物を減し瘦さしの
てかなしさなまざるのしてゝ人を歎くでさふハな
きり此かうふも○かくつて聞もうるゝ枉事あり
どやまく上古ハ神農なとの代にハ王みづから鍬と
とりて民ニ混りて田作りをまし其妻ハ蠶をとりて
衣織りなどして只に君臣とてふの所業ハさのミ
かはりなしと後代となりてハ其ともおしなべて田つ

くろ时の最初に王も出て鍬をとり田つくへと状となし
まへ其妻まも衣織るつきぞ蚕とる業あとぞいさへう
まへだし絶て人を欺く事とわかりぬ此等乃
ことハ儒者ハ民に義を勧むとていて甚しき
事にいへども我よりかれを却て民に偽巧む事
を教ゆるりきとこそ思るれ周の代となりて制せ
ある禮にハなお此類多しさてこそ神を祀るとさ
へし民に教と教ふるの道あり或ハ鬼神を假て
教導とわたるといふことなりて本意をとりうしなひ
あるとかれ趣るを儒者の多くハ本をまとを甚

もかし来ある事さへんつらどまを執へて本をとち
らさるハ彼あると制して斂をとりとむる類あまあり
此熟く辯へ明らむべき事なりきにし強て後の
世の説の如くまそ儒者のいふ如くハ鬼神を祭るうと
を假に設あへる事なりとをは孔子も湯武王等が
輩の天命と誣ひ詐つる事と等く實よハ良るく心も
あきをと人にそ良まうすとそしへあく其言を信ませせ
とて良を殺ふ状にそてなへしわるそしの似そゐ非ある
ことのうかぞ孔子ハ趣る偽巧の行をかえして人を欺へう
もやや自も巧言令色鮮矣仁ともいへるに非ずや

あれハ妄く云たれバ孔子にハ生へくその言行よりかよ
隠れたる心なかりしと見えて二三子以我為隠乎
吾無隠乎爾吾無行而不與二三子者是丘也と云へるも
これし普通の論ひの如くなれバ此も偽言となる
をや實し正しき人ハ人の見聞のミならずその
意より誠ありて称で実ま正しき人と云へりけす
孔子自も色取仁而行違ことをハいましめられたる
をや故に大学にも誠其意者毋自欺也と見え
たりとも西戎国にハ賢人と云たれし輩にも
生涯自欺きたりと見ゆるも多かれと孔子のこと

然る人とハ称のなれはなし
斯のごとく其言と行とに心止めて察しそのうけハ更に
廋ることなきとの如し

論語に子曰視其所以観其所由察其所安
人焉廋哉人焉廋哉

其實ハ有あることを悟りて畏まを敬へることと論なし
此ハ真の道に志しあらむには四季昼夜の来往ゆく
ありさまも萬物の生り出るなどをもてても悟りあるべき
ことなれり腐儒者流の如く天地といふ一川の大きなり
奇怪き物の中間に在て己躰の大きさに奇怪さとの

なるごとき云へり得ざれども己が智と力とに及ばぬ
ことなれバ事必無しと決むる類の愚昧にてハ有べし
さてまた論語に子不語怪力乱神と見えまたく孔子自らも
現に天上に世の事を主宰る神の在ますとハ云へる論も見え
ざるハ此ハ前にもいへる如く漢土にハ正實の傳説なければ
なまじひに詳にハいふこと能はざれバしかいへりとも大凡の
人ハ彼の藐姑射の神人の譚さしる如くなる故にハあらぬ
なるべし
正しき傳説を聴居る皇国人にしてこそ神の御所行
を信ぜぬ人あり況傳説なき漢国に於てをや

藐姑射の神人とハ荘子逍遥遊の篇に藐姑射之山有
神人居焉肌膚若氷雪綽約若處子不食五
穀吸風飲露乗雲気御飛龍而遊乎四海之外
其神凝使物不疵癘而年穀熟吾以是狂而不
信之と云へるを此神人の寓言より俗の天津神の
御所為を志らぬ人と諭さむとしたるなり
此ハかの於其所不知蓋闕如也と云へる言の虚しからずして
後世の儒者なりの漫に臆度せる類にハ不有なり
まことにしくハ云ひてけりしが其語の傳りしぬるも
いふべし不語怪力乱神とはいふをゆてきるとなく

神怪を語ることなかりしと云ふ人もあれど同書に
鳳凰不至河不出圖吾已矣夫と云へるハ上古に伏羲
と云へるが時河中より龍馬の圖を負ひて出しより
とかく云ふ事にて鳳といふ鳥ハ聖人の世に祥瑞と
せしなく舜の時また周文の時にありしといへり
なれバ今まで神怪を語ることを絶てなしとハいふ
無かりけれバ他の書に神怪を語れる言のみえざるハ
今按ずるにいと面白きと
さて傳説なくてハ天神の世中の万の事を主宰て
禍ふを與ふ人の存亡禍福ハ皆神の御所為にて實にハ
人の知ハ及びがたしといふてハ容易くハ知りえざる事也
孔子も五十ニシテ而知ル天命ヲといへり
此語を以ても孔子の天命といへるハ餘の戎人どもの天
命とくといふとハ大きに異にしてはるかに託言なるを
はかりことと知るべし
此ハ實に後もはかるべし　しかれども正實の傳へなきによりこの
者どもの言ひ居る國に生まれ出ればこそ鬼神の奇
妙なる理を悟れるハ是ハ實に孔子の大きなる人に勝
れる處にして餘の戎人等のうけても及びがたき處
なり

中庸ニ唯天下至誠為能知天地之化育ともいへるも
誠に徹る語なりけり
さて然天神の御所為を悟りては彼の董仲舒か道
之大原出於天といへることも此理を知らざれは道の大本
に昧くして時務にまどひ人情に疎くて政にもゆ
届かぬものなりけれ
時務をよくしり人情を熟くしりての政を執る人の
別に熟く心得へき事なれとも之
魯哀公か政を問へるに對へて為政在人取人以身脩身
以道修道以仁仁者人也親親為大義者宜也尊賢為
大親親之殺尊賢之等禮所生故君子ハ不可以不修身
思修身不可以不事親思事親不可以不知人思知人
不可以不知天なりといへる政をとるハ天津神の御所為を
知ることを本とせり不知命無以為君子也といへるも
此意なり此ハ初発に発せる尚書も傳ふとまうえてる
ことくまへよく世の中の支物まで人の性も天津神乃
賦命偶ゆるしものなく
中庸ニ天命之謂性といへるも則この支ところ
實に道の大意なれど疎には有るまじきことなれど
なり

大正三年五月七日[illegible]